

薬学 部

薬学 科

薬科学 科

医療栄養学 科

履修の手引と手続 (医療栄養学科)

I 授業科目について

薬学部医療栄養学科における授業科目は、基本科目は1年次に、専門科目及び関連科目からなっている。授業科目のうち、基本科目は1年次に、関連科目は、1, 2年次に履修する。その他、栄養教諭志望者のための教職関連科目（自由科目）がある。

II 授業科目の単位と認定

本学では単位制が採用されている。単位制とは、一つ一つの授業科目に一定の基準により定められた単位があり、履修した授業科目に対して、試験その他の方法により学習評価をしたうえでその単位を認定する制度である（学則第15条参照）。

単位認定の評価はS・A・B・Cの認定を受けることで単位を修得したことを示す。

III 進級基準

1. 当該学年に配分されている必修科目（基本科目及び専門必修科目）の単位を修得しなければ進級できない。ただし、実験・実習科目の単位は必ず修得していなくてもはならないが、その他の未修得必修科目数が3科目以下の者の進級を認めることがある。未修得必修科目数とは、下級学年の未修得必修科目数をも加算したものをいう。また、2年次から3年次への進級にあたっては、関連科目（選択必修6単位以上）を必ず修得していなくてもはならない。
2. 正当な理由なく複数回留年したものについては、学則に従い適当な処置を講ずるものとする。

3. 進級判定の対象となる科目及び進級に必要な科目数

第 19 表

	1年→2年	2年→3年	3年→4年
	科目名	科目名	科目名
基本科目	講義 コミュニケーション基礎英語 A コミュニケーション基礎英語 B コミュニケーション基礎英語 C コミュニケーション基礎英語 D		
	演習 フレッシュマンセミナー演習		
専門科目	講義 生物学 生物有機化学 医療栄養学概論 微生物学 解剖生理学 A 栄養教育論 A 生化学 A 解剖生理学 B 調理加工学 食品化学	生化学 B 基礎栄養学 食品材料学 A 臨床栄養学 A 細胞生理化学 公衆衛生学 薬物療法学 A 食品衛生学 病態解析学 A 薬物療法学 B 給食経営管理論 ライフステージ栄養学 食品材料学 B 栄養教育論 B 公衆栄養学 A 応用栄養学	病態解析学 B 臨床栄養学 B 食品機能学 公衆栄養学 B 特殊環境栄養学 栄養療法学 医療制度概論 薬理学
	演習 栄養情報科学演習 医療栄養学概論演習	カウンセリング演習 看護学演習 給食経営管理演習 総合演習 A	臨床栄養学演習 A 病態解析学演習 メニュープランニング演習 臨床栄養学演習 B
	実験 実験 基礎分析化学実験 調理学実習 A 生化学実験 食品化学実験	食品衛生学実験 食品機能学実験 調理科学実験 解剖生理学実験 A 栄養教育論実習 公衆栄養学実習 調理学実習 B	栄養学実験 栄養生理学実験 解剖生理学実験 B 臨床栄養学実習 A 臨床栄養学実習 B 給食経営管理実習
進級条件	進級の対象となる科目数 〈21〉	進級の対象となる科目数 〈27〉	進級の対象となる科目数 〈18〉
	1) 基本科目の講義と演習および専門科目（必修）の講義と演習の未修得が 3 科目までは進級を認めることがある。 2) 専門科目の実験・実習は全科目修得のこと。	1) 基本科目の講義と演習および専門科目（必修）の講義と演習の未修得が 3 科目までは進級を認めることがある。 2) 専門科目の実験・実習は全科目修得のこと。 3) 関連科目 6 単位修得のこと。 4) 総合演習 A は 3 年進級上は必修	1) 基本科目の講義と演習および専門科目（必修）の講義と演習の未修得が 3 科目までは進級を認めることがある。 2) 専門科目の実験・実習は全科目修得のこと。

※ 2 年次は授業負担が大きいため、関連科目は 1 年次のうちに 4-6 単位を修得することが望ましい。

IV 卒業について

1. 卒業可能最低科目数及び単位数は次の表に示すとおりである。ただし、自由科目は卒業に必要な単位数には含まれない。また、卒業に必要な単位数を取得することにより、管理栄養士国家試験受験資格及び又は栄養士免許を取得できるほか、食品衛生管理者や食品衛生監視員の任用資格を取得することができる。

第20表

系列		項目	科目数	単位数
基本科目			5	9
専門科目	必修		66	108
	選択		4以上	8
関連科目			3以上	6
計			78以上	131

V 授業科目の学年配当と修得すべき単位数

1. 基本科目

基本科目は、大学における学習方法や学生生活の指導を通して自立した社会人としての意識づけを行うこと、及び英語力の習得にあてられる。

- (1) 基本科目は、すべて必修科目であるから必ず修得しなければならない。
- (2) 基本科目は主として1年次に履修するものとする。

学年配当表

[医療栄養学科]

第21表

※単位数に○印を付してある科目は必修を示す。

系列	授 業 科 目	年次及び単位数				最低取得 単 位 数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
基 本 科 目	フレッシュマンセミナー演習	①				9 単 位	
	コミュニケーション基礎英語A	②					
	コミュニケーション基礎英語B	②					
	コミュニケーション基礎英語C	②					
	コミュニケーション基礎英語D	②					

2. 専門科目

専門科目は、医療分野における栄養学のスペシャリストとして社会に貢献しうる人材を養成するために必要な科目として配置され、必修科目と選択科目に分かれている。

(1) 必修科目は、医学、薬学、栄養学の関連分野、及び学士（医療栄養学）・管理栄養士養成のため教育上必要不可欠とされる科目を含んでいる。

卒業するためには、66科目（108単位）を修得しなければならない。

(2) 選択科目は、卒業後の進出分野（医療、地域保健福祉、スポーツ栄養、研究開発、栄養教諭、大学院など）を考慮して、それぞれに必要な教育科目を組み入れてある。自分が将来希望する方面や活動する分野を考えて一つの系統を立て、それに合わせて必要科目を選択履修することが望ましい。卒業するためには、最低4科目（8単位）を修得しなければならない。

(3) 専門必修科目及び、専門選択科目の学年別配当は下表のとおりである。

第22表

年 次	必 修		選 択	
	科目数	単位数	科目数	単位数
1年	16	29	2	4
2年	27	44	3	5
3年	18	26	10	18
3・4年	2	4	2	2
4年	3	5	3	6
計	66	108	20	35

学年配当表

[医療栄養学科]

※単位数に○印を付してある科目は必修を示す。

※食品衛生管理者及び食品衛生監視員任用資格を得ようとする者は、*1 A～Dの各群より1科目以上、合計22単位以上を取得し、加えて、*2群の科目から取得した単位数の合計が40単位以上であること。

第23表

系列	分野	授 業 科 目	年次及び単位数				最低履修科目数及び修得単位数	備 考
			1年	2年	3年	4年		
専 門 医 療 栄 養 学 分 野 目	基 礎 医 療 栄 養 学 分 野	生物学	②				必修科目 66科目 108単位 選択科目 4科目以上 8単位以上	
		細胞生理化学		②				
		生化学A*1B	②					
		生化学実験*2	②					
		生物有機化学*1A	②					
		医療栄養学概論	②					
		医療栄養学概論演習	①					
		食品化学*1B	②					
		食品材料学A*2		②				
		基礎分析化学実験*1A	①					
		食品化学実験*1B	①					
		食品機能学実験		①				
		調理加工学*1C	②					
		調理学実習A*2	②					
		栄養情報科学演習	②					
		生化学B*2		②				
		基礎栄養学*2		②				
		食品材料学B*2		②				
		調理科学実験*2		①				
		ライフステージ栄養学		②				
応用栄養学*2		②						

系列	分野	授 業 科 目	年次及び単位数				最低履修 科目数及び 修得単位数	備 考
			1年	2年	3年	4年		
専 門 科 目	基 礎 医 療 栄 養 学 分 野	調理学実習B* ²		①				
		栄養教育論A	②					
		栄養教育論B		②				
		栄養教育論実習		①				
		給食経営管理論* ²		②				
		メニュープランニング演習			①			
		食品機能学			②			
		特殊環境栄養学* ²			②			
		給食経営管理実習* ²			①			
		栄養学実験* ²			①			
		栄養生理学実験* ²			①			
		給食経営管理演習* ²		①				
		臨地実習B				①		
		機能的食品論	2					
	ハーブ論* ²		2					
	栄養教諭概論A			2				
	栄養教諭概論B			2				
	衛 生・公衆 栄 養 学 分 野	微生物学* ^{1C}	②					
		食品衛生学* ^{1D}		②				
		食品衛生学実験* ^{1C}		②				
		公衆衛生学* ^{1D}		②				
公衆栄養学A			②					
公衆栄養学実習			①					
公衆栄養学B* ^{1D}				②				
臨地実習C				1				

系列	分野	授 業 科 目	年次及び単位数				最低履修 科目数及び 修得単位数	備 考
			1年	2年	3年	4年		
専 門 科 目	医 療 栄 養 学 分 野	毒性学* ^{1B}				2		
		解剖生理学A* ²	②					
		解剖生理学B* ^{1B}	②					
		カウンセリング演習		①				
		看護学演習		①				
		病態解析学A* ²		②				
		薬物療法学A		②				
		薬物療法学B		②				
		総合演習A		①				
		解剖生理学実験A* ²		①				
		臨床栄養学A		②				
		運動生理学演習				1		
		解剖生理学実験B* ²				①		
		薬物療法学C				2		
		臨床栄養学B				②		
		臨床栄養学演習A				①		
		臨床栄養学演習B				①		
		臨床栄養学実習A				①		
		臨床栄養学実習B				②		
		病態解析学B* ²				②		
		医療制度概論				①		
		薬理学				②		
		診断放射化学* ²				2		
		栄養療法学				②		
		病態解析学演習* ²				①		
		分子生物学* ²				2		
栄養免疫学* ²				2				
臨地実習A					③			

系列	分野	授 業 科 目	年次及び単位数				最低履修 科目数及び 修得単位数	備 考
			1年	2年	3年	4年		
専 門 科 目	医 療 栄 養 学 分 野	薬物食品作用学				②		
		医療心理学		2				
		介護学演習			1			
		緩和医療学			2			
		医薬品情報学				2		
		スポーツ栄養学演習		1				
		福祉論	2					
		分子栄養学*2			2			
		内分泌学				2		
		薬局実習			1			
		総合演習B				①		
		卒業研究				②		

3. 関連科目

関連科目は、幅広い人間性を養う上で有用な科目であり、教養科目（人文系，社会系，自然系）外国語科目，体育関係科目および語学教育センター講座科目から構成されている。

関連科目は2年次修了時までには6単位以上を修得しなければならない。

※2年次は授業負担が大きいため、関連科目は1年次のうちに4-6単位を修得することが望ましい。

学年配当表

[医療栄養学科]

第24表

系列	授 業 科 目	年次及び単位数				最低履修科目数 及び履修単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
関 連 科 目	倫理とは何か	2				関連科目 6単位 選択必修	
	現代社会と法Ⅰ（日本国憲法）	2					
	現代社会と法Ⅱ（国際法を含む）	2					
	人と文化	2					
	思想と人間	2					
	社会学 A	2					
	心理学Ⅰ	2					
	近世の日本史Ⅰ	2					
	日本の文学Ⅰ	2					
	地域と風土	2					
	物理学 A	2					
	物理学 B	2					
	世界の中の日本 A	2					
	世界の中の日本 B	2					
	地域と大学	2					
	グローバル社会と女性	2					
	女性とダイバーシティ（女性の働き方）	2					
	女性とキャリアデザイン（女性と企業）	2					
	自校史研究（建学の精神と大学の理念）	2					
	国際グローバル研修	2					
海外研修Ⅰ	2						
海外研修Ⅱ	2						
海外研修Ⅲ	2						

系列	授 業 科 目	年次及び単位数				最低履修科目数 及び履修単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
関 連 科 目	海外研修Ⅳ	2					
	Oral English I A	2					
	Oral English I B	2					
	資格英語 I A	2					
	資格英語 I B	2					
	留学英語 A						
	留学英語 B						
	English Communication I A	2					
	English Communication I B	2					
	ドイツ語 I A	2					
	ドイツ語 I B	2					
	ドイツ語Ⅱ A		2				
	ドイツ語Ⅱ B		2				
	中国語 I A	2					
	中国語 I B	2					
	中国語Ⅱ A		2				
	中国語Ⅱ B		2				
	スペイン語 A	2					
	スペイン語 B	2					
	韓国語 I A	2					
	韓国語 I B	2					
	韓国語Ⅱ A		2				
	韓国語Ⅱ B		2				
	フランス語 I A	2					
	フランス語 I B	2					
	フランス語Ⅱ A		2				
フランス語Ⅱ B		2					
ハンガリー語 A	2						
ハンガリー語 B	2						

系列	授 業 科 目	年次及び単位数				最低履修科目数 及び履修単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
関 連 科 目	ポーランド語 A	2					
	ポーランド語 B	2					
	マレー語 A	2					
	マレー語 B	2					
	健康スポーツ I A	1					
	健康スポーツ I B	1					
	健康スポーツ II A	1					
	健康スポーツ II B	1					
	データサイエンス入門	2					
	データサイエンス入門と数理統計			2			
	機械学習と AI			2			
	データサイエンス特別講義 I			2			
	データサイエンス特別講義 II			2			
	応用 AI プログラミング			2			
	社会科学におけるデータサイエンス			2			
	ゲーム理論と AI			2			
	定量的政策評価			2			
	金融データ分析			2			
	文化研究 I	1					
	文化研究 II	1					

データサイエンス教育プログラムについて

数理・データサイエンスセンターが提供する関連科目「データサイエンス入門」を基礎に、医療栄養学科で学ぶ科目（第 25 表）と合わせて有機的にデータサイエンスの素養を身につけていくことができる。このデータサイエンス教育プログラムを修了した学生には、データサイエンスの基礎的素養を身につけたことに対して修了証が授与される。

医療栄養学科で学ぶ科目

第 25 表

学年	科目名	単位数	学年	科目名	単位数
1	栄養情報科学演習	2	2	スポーツ栄養学演習*	1
1	基礎分析化学実験	1	3	公衆栄養学 B	2
2	公衆衛生学	2	3	解剖生理学実験 B	1
2	公衆栄養学 A	2	3	栄養生理学実験	1
2	公衆栄養学実習	1	4	薬物食品作用学	2
2	食品衛生学実験	2			

*印のみ専門科目（選択）であり、無印は専門科目（必修）である。

4. 教職関連科目（自由科目）

教職関連科目は、教育職員免許状取得（栄養教諭）のための授業科目であり、学生の希望により選択履修できる。これらの科目は自由科目であり、卒業に必要な単位数には算入されない。

なお、教職関連科目は、履修科目数が多いので、GPA2.6以上の成績を継続的に維持できる学生の履修が望ましい。

詳細については、教育職員免許状取得のための課程の頁を参照すること。

学年配当表

第 26 表

系 列	授 業 科 目	年次及び単位数				備 考
		1 年	2 年	3 年	4 年	
教 職 関 連 科 目	教育学概論 A	2				
	教職論	2				
	教育心理学	2				
	教育方法及び ICT 指導法	2				
	特別支援教育	2				
	教育史	2				
	道徳教育の理論と指導法	2				
	生徒指導 (進路指導の理論及び方法を含む)		2			
	教育学概論 B		2			
	教育課程論 (総合的な学習の時間の指導法を含む)		2			
	学校と図書館		2			
	ジェンダー・教育・ダイバーシティ		2			
	特別活動論			2		
	教育相談（カウンセリングを含む）			2		
	教職実践演習（栄養教諭）				2	
	栄養教育実習 (事前及び事後指導を含む)				2	

5. 自由科目

これらの科目は自由科目であり、卒業に必要な単位数には算入されない。

学年配当表

[医療栄養学科]

第 27 表

系 列	授 業 科 目	年次及び単位数				備 考
		1 年	2 年	3 年	4 年	
	医薬品情報・マネジメント概論A			2		
	医薬品情報・マネジメント概論B			2		

Ⅵ 授業科目の履修申請

各年次において履修しようとする授業科目は、学年初めの指定された期日に所定の方法（オリエンテーションで説明する）で履修申請をしなければならない。履修申請は、年間の受講計画をたて、**単位を修得する意思表示をする**学年初めの重要な手続きである。この履修申請を間違えたために、授業科目の履修ができなくなり、その結果進級はもとより、卒業ができなくなる場合もあるので、以下に掲げる注意事項を厳守して、誤りのないように履修申請をすること。

(1) 履修申請は、当該学部・学科の授業時間割表を参照し、曜日、時限、コマ・コード、授業科目名、開講期間、担当教員等を確認し申請を行なうこと。

* コマ・コードとは、授業時間割表に授業科目名等と共に記載されている番号で、その時限の授業科目の固有の番号である。

(2) 履修申請をした後は、授業科目および担当教員などの変更、追加、取消しなどは認めないので、申請前に授業時間割表と照合してもう一度確認するなど、細心の注意を払うこと。なお、履修照合日が設けられているので間違いなく登録されているかどうか必ず確認すること。

(3) 履修申請をしていない授業科目は受講しても単位は認められないので、授業科目の申請にあたっては進級や卒業に必要な単位の算定を慎重に行ない、修得単位数が不足しないように万全を期すこと。

(4) 同一時限に2つ以上の授業科目を履修することはできない。

(5) 単位を修得した授業科目は、再度履修することはできない。

(6) 指定された期日までに履修申請を行わない場合は、学業の意思なしとみなし、**退学を命ずる**（学則第69条）。

Ⅶ 正規の履修からはずれる場合

1. 再履修

過年度不合格となった科目を再度履修することをいう。原則として再履修クラスのある科目は再履修クラスで履修すること。ただし、再履修科目が修得すべき他の科目と時間割上の配置が重なるなどの問題があるときには、規定外履修すること。規定外履修クラスの履修が困難な場合、時間割外履修を申請し、単位修得の方法について、担当教員の指示に従うこと。

2. 規定外履修

該当するクラスの授業時間以外で受講せざるを得ない場合の履修を規定外履修という。その場合必ず学部事務室に相談すること（原則として1年生は認めない）。

Ⅷ 履修上の注意

1. 実験・実習科目について

実験・実習科目は全て出席しなければならない。ただし、各実験・実習において5分の4以上出席した者には、単位の修得を認めることがある。

2. 上位学年に配分されている科目は履修できない。

ただし、留年者にあつては、直上位学年に配分されている専門選択科目の履修を認めることがある。

3. 履修科目の登録の上限

履修科目として登録できる単位数の上限は、1学年当たり、基本科目（講義・演習）、専門科目（講義・演習・実習）及び関連科目を合わせて49単位までとする（CAP制）。ただし、自由科目の単位は上限の49単位には含めない。なお、留学を希望する学生および特別な事情がある場合については、上記に定められた単位数を超えて履修単位の登録を認める場合がある。

Ⅸ 試験について

1. 定期試験及び臨時試験

- (1) 試験は、定期試験及び臨時試験とし、定期試験は原則として学期末又は学年末に行う。
- (2) いずれの授業科目も原則として授業時数の3分の1以上欠席した者は、当該授業科目の受験資格を失う。ただし、病気又は、正当な理由による欠席の場合には、特別に考慮されることがある。

2. 試験に関する注意

- (1) 試験時間割は掲示により通知する。
- (2) 試験場内では、すべて監督者の指示に従わなければならない。
- (3) 受験者は、試験開始10分前までに試験場に入らなければならない。
- (4) 試験開始後は、遅刻者の入室は認められない。ただし、特別の事由により遅刻した者は、試験開始後20分以内までは入室を認めることがある。
- (5) 受験者は、試験終了後、監督の指示があるまで退場することができない。
- (6) 受験者は、必ず学生証を机上の見やすい所に置く。
- (7) 試験場では、持込みを許されたもの以外は、カバンの中に入れるか、机の中に入れてしまうこと。
- (8) 試験場では、一切物品の貸借は許されない。
(ノート、参考書等の使用を許された場合には自分のものを使用すること)

- (9) 答案用紙には、必ず学籍番号、氏名を記入すること。答案用紙を場外に持ち出すことは許されない。
- (10) 受験者は、試験中監督者の許可を得ないで、試験場を出ることはできない。
- (11) 試験場内の座席は、監督者の指示に従うこと。
- (12) 不正行為をした者については、学則第 68 条により罰せられ、更にもその年度における当該授業科目の単位の認定を行わない。
- (13) その期の授業料未納者は、受験できない。
- (14) 事故のため受験できなかった者は、欠席届に詳細な理由を記し、かつ学科目・担当者・クラス別に明記し、保証人連署のうえ、病気の場合は診断書を、その他の場合は事故を証明する書類を添付して、早急に科目担当者及び学部事務室に提出すること。

3. 追 試 験

- (1) やむを得ない事情によって定期試験を受験できなかった者は、当該授業科目担当教員の許可があれば追試験を受けることができる。(成績通知書に T の表示がある科目)
- (2) 追試験の受験を許可された者は、「追試験受験願」を学部事務室に提出しなければならない。追試験の受験料は、1 科目につき 200 円とする。(受験票は紛失、破損等のないよう注意すること)
- (3) 追試験は、履修(再履修を含む)した年度に限り受けることができる。
- (4) 追試験は、原則として学期末及び、学年末に実施する。

4. 再 試 験

- (1) 定期試験の結果、不合格となった授業科目のある者は、当該授業科目担当教員の許可があれば再試験を受けることができる。(成績通知書に F の表示がある科目)
- (2) 再試験の受験を許可された者は、「再試験受験願」を学部事務室に提出しなければならない。再試験の受験料は、1 科目につき 1,000 円とする。(受験票は紛失、破損等のないよう注意すること)
- (3) 再試験は、履修(再履修を含む)した年度に限り受験することができる。
- (4) 再試験は、原則として学期末及び、学年末に実施する。ただし、授業科目によっては再試験を行わない場合もある。

5. 論文試験(レポート)

論文提出によって試験に代えることがある。再試験もしくは追試験として評価する場合はそれぞれの手続は必要である。

X 成績発表

1. 成績発表は、Web 成績照会システムを用いて行う。開示期間に指定 URL にアクセスし確認すること。成績の評価は、下記 XI GPA についての「GP の基準」を参照のこと。
2. 単位を修得した科目の再評価は行わない。
3. 成績についての疑問、質問などは早急に学部事務室に問合せること。

XI GPA について

本学では、「GPA (Grade Point Average)」制度を導入している。以下に示すことを十分理解しておくこと。

1. GPA の意味

- (1) GPA の値とは、自分の成績を数値化したものである。学期毎や学年毎の GPA と入学からの通算の GPA を比較することで、自らの学習成果の推移を知ることができる。
- (2) GPA の値には、T 評価、F 評価および Z 評価を受けた科目についても計算に組み入れられる。したがって、安易に考えて開講期間の半ばで授業参加をやめた場合などは低い値となる。

2. GPA の計算

「GPA」は、下記の基準に基づいて評価した成績の GP (Grade Point) に各科目の単位数を掛けて合計し、履修登録した科目の単位数の合計で割った 1 単位あたりの GP 平均値 (Average) である。仮に、履修した科目の成績がすべて「S」評価の場合は GPA の数値は 4 になり、すべての成績が「C」の場合は 1 となる。

「GP の基準」

成績評価 (表示)	評価の基準 (点)	合否	GP
S	100 ~ 90	合格	4
A	89 ~ 80	合格	3
B	79 ~ 70	合格	2
C	69 ~ 60	合格	1
F	59 以下	不合格	0
T	追試験受験可	未受験 (不合格)	0
Z	失格	不合格	0

$$\text{GPA} = \frac{[\text{GP} \times \text{当該科目の単位数}] \text{の合計}}{\text{履修登録科目の単位数の合計 (T 評価, F 評価, Z 評価科目を含む)}}$$

(注) 不合格となった科目を次年度以降に再履修して合格した場合には、成績は上書きされ、過去の不合格の成績は、GPA 計算式に算入されない。

(注) GPA計算式に算入されない科目もある。

XII 試験における不正行為の懲戒について

試験における不正行為は厳禁とし、不正行為を行った受験生は厳正に処分する。

不正行為に関する定めは本書「城西大学 学内試験等における不正行為の取り扱い指針」を参照すること。

XIII 資格および免許

1. 栄養士について

本学科では、厚生労働省指定科目をすべて必修としているため、卒業と同時に栄養士免許を取得することができる。

2. 管理栄養士について

本学科では、卒業と同時に管理栄養士国家試験の受験資格を取得できる。

3. 食品衛生管理者・食品衛生監視員の任用資格について

本学科では、厚生労働省指定科目をすべて必修としているため、卒業することにより、食品衛生管理者・食品衛生監視員の任用資格を取得することができる。